

【 1 】 次の資料をもとに、以下の問いに答えなさい。

◇富岡に住む太郎君は、京急富岡駅から徒歩5分のところにある、「孫文先生上陸乃地記念碑」を調べ、日本史探究の授業で友達に自慢してみようと考えた。

資料 1

近代中国建設の父にして、三民主義・大アジア主義の提唱者である孫文先生は第二革命に際し、a 袁世凱^{えんせいがい}に追われ中国を脱出、台湾経由日本に亡命を企図され、1913年（大正2年）8月17日横浜沖より小舟にて当地富岡海岸に上陸、東京に向かわれた事実は当時の神奈川県知事大島久満次より外務大臣牧野伸顕に充てた報告文により明白となりました。

孫文先生の富岡上陸亡命成功の蔭に当時の日本当局者並びに b 日本人有志の援護があり、それが要因となって c 近代中国が生まれたことを思えば、d 富岡上陸の意義は誠に大きいと言わねばなりません。（略）

昭和59年8月17日

孫文先生上陸之地記念碑建立委員会



資料 2 南方熊楠が、若き孫文とロンドンで出会い、会話をしている場面

「ミナカタ、あなたの一生の所期（注1）は？」

そう訊かれて熊楠は、

「ねがわくは、われわれ東洋人は・・・」

熊楠は、大きな眼をきらきらさせて孫文をみた。

「」

熊楠の大胆なことばに、孫文は蒼くなった。当然であろう。ここは大英博物館（注2）の正面玄関である。まわりにイギリス人がひしめいているのだ。

しかし、そう思いながらも孫文は、その反面、この不敵な日本人ミナカタのことばに、一種、凄烈な心ふるえるものをおぼえた。

「そうだともミナカタ。僕もそれを思っている」

『縛られた巨人 南方熊楠の生涯』神坂次郎より

（注1）期待すること。

（注2）イギリスの公立博物館。所蔵品には、帝国主義政策によって獲得した植民地で収集した文化財が多く含まれる。

問1 下線部 a. d について、資料1 と史実からわかる袁世凱についての説明と、孫文の富岡上陸の意義についての説明の組み合わせとして、正しい記号を選びなさい。

- A 孫文は共産党と対立していたため、袁世凱とは共産党を組織した人物である。
- B 孫文は軍閥と対立していたため、袁世凱とは軍閥を組織した人物である。
- C 富岡上陸の意義とは、日本での活動によって、孫文が中華民国を倒して近代中国が生まれたということである。
- D 富岡上陸の意義とは、日本から孫文が中国に戻って再び革命を進め近代中国が生まれたということである。

ア A-C イ A-D ウ B-C エ B-D

問2 下線部 b に関連して、生物学者・博物学者の南方熊楠^{みなかたぐまぐす}も孫文を支持した日本人の一人である。資料2にある小説の一場面を読み、空欄 に適する語句と、その後の孫文の革命についての説明の組み合わせとして正しい番号を選びなさい。

- 空欄の語句
- A 「東洋の国々にいる西洋人をことごとく国境の外に追放したきことなり」
 - B 「西洋化を否定する東洋人をことごとく国境の外に追放したきことなり」
- 孫文の革命
- C 権益をむさぼる欧米の支配を脱し、皇帝による強力な支配によって中国を統一する。
 - D 皇帝による古い支配を脱して、欧米列強と対抗できる国を作るため中国を統一する。

ア A-C イ A-D ウ B-C エ B-D

問3 下線部 c に関連して、この後の孫文およびその後継者らについて述べた文章として誤っているものを選びなさい。

- ア 列強に対抗するためにはまずは強力な政府が必要であると考えた孫文は、北方の軍閥打倒を目指した。
- イ 列強は孫文ら革命勢力との連携には慎重だったこともあり、孫文はソ連との接近を図った。
- ウ 孫文とその後継者は、最終的に首都北京を制圧し、中国の再統一に成功した。
- エ 中国統一後も、共産党と連携して根強く抵抗する軍閥との内戦に挑んだ。

【 2 】 次の資料 1・2 を読み、あとの問いに答えなさい。

資料 1

「(1) 海軍軍縮条約」
 第一条 締約国ハ本条約ノ規定ニ従ヒ各自ノ海軍軍備ヲ制限スヘキコトヲ約定ス
 第四条 各締約国ノ(2)合計代換噸数ハ基準排水量ニ於テ合衆国五十二万五千噸、英帝国五十二万五千噸、仏蘭西国十七万五千噸、伊太利国十七万五千噸、日本国三十一万五千噸ヲ超ユルコトヲ得ス
 第五条 基準排水量三万五千噸ヲ超ユル(2)ハ何レノ締約国モ之ヲ取得シ又ハ之ヲ建造シ、建造セシメ若ハ其ノ法域内ニ於テ之カ建造ヲ許スコトヲ得ス
 第七条 各締約国ノ航空母艦合計噸数ハ基準排水量ニ於テ合衆国十三万五千噸、英帝国十三万五千噸、仏蘭西国六万噸、伊太利国六万噸、日本国八万一千噸ヲ超ユルコトヲ得ス

資料 2

「ウィルソンの十四カ条」(概要)
 ①秘密外交の廃止
 ②公海の自由
 ③関税障壁の廃止
 ④軍備の縮小
 ⑤植民地問題の公正な解決
 ⑥ロシアの完全独立とロシアからの撤兵
 ⑦ベルギーの主権回復
 ⑧アルザス・ロレーヌのフランスへの返還
 ⑨イタリア国境の再調整
 ⑩オーストリア＝ハンガリー帝国における民族自決
 ⑪バルカン諸国の独立
 ⑫オスマン帝国支配下の諸民族の自治
 ⑬ポーランドの独立
 ⑭国際平和機構の設立

問 1 資料 1 の空欄 (1) ～ (2) に適する語句を答えなさい。

問 2 資料 1 の条約が締結された会議について、アメリカが提唱したおもな目的のうち日本に対するものと、会議に対する日本の姿勢についての説明として、正誤の組合せが正しいものを選びなさい。

X アメリカはヨーロッパにおけるドイツの膨張を抑制することを主な目的に会議の開催を提唱した。

Y 幣原外交は積極外交で、会議によって作られたワシントン体制に国際連盟で反対した。

ア X＝正 Y＝正

イ X＝正 Y＝誤

ウ X＝誤 Y＝正

エ X＝誤 Y＝誤

問 3 資料 1 の下線部について、保有量のアメリカ・イギリス対日本の比率を答えよ。

問4 資料2について、ウィルソンが十四カ条で掲げた理想は現実となったか、次の図からわかることを述べたX・Yの、正誤の組合せが正しいものを選びなさい。



図 i 日本的一般会計歳出額における軍事費の割合

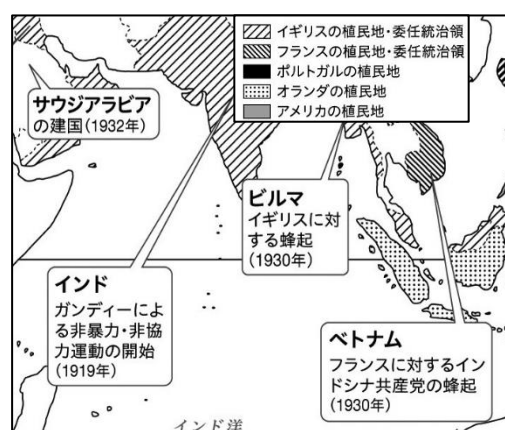


図 ii 第一次世界大戦後のアジア

X 軍縮という理想は、図 i から少なくとも日本においては達成できていたことがわかる。

Y 民族自決という理想は、図 ii からヨーロッパのみならずアジアでも実現したことがわかる。

ア X = 正 Y = 正

イ X = 正 Y = 誤

ウ X = 誤 Y = 正

エ X = 誤 Y = 誤

【 3 】 次の資料は、リットン報告書に対する日中それぞれの反応である。資料をもとに、以下の問に答えなさい。

資料 1

「リットン報告書」に対する日本側の反応

日本側は、リットン報告書が下した三つの結論のうち、二つの点で同意できない、と言っています。一つ目は、a 関東軍の軍事行動は自衛権の措置ではないというのに対して、日本側は、これは自衛権の行使だ、ここは譲れないといいます。もう一つは、現在の政権、満州国は、純粋かつ自発的な独立活動によって出現したものではないということに反論している。満州国は、現地の中国人や満州族らの民族自決によって誕生した国家だと。自衛権だ、民族自決だと、きれいな言葉で反論しているわけです。

『戦争まで』加藤陽子より

資料 2

「リットン報告書」に対する中国側（国民党の一部）からの反応

「リットン報告書は矛盾している。東三省（満州、中国東北部）を中国領土と認めていながら、自治政府に顧問会議を設置し、外国人顧問を雇い、しかも日本人顧問が大半を占めるようにしている。また、日本側の要求をいれて、中国東北部全域における日本人の定住権・土地租借権を治外法権と交換して認めた。また、東北全域を非軍事地域にするのは、主権のある中国側が自ら国土である東北部に軍隊を置く権利を持たないということだ。組織的な日貨排斥も禁止される。我々は、このような規定を、b 二十一カ条とくらべても、さらに過酷なものとする。」

『戦争まで』加藤陽子より

問 1 下線部 a について述べた文章として誤っているものを、選びなさい。

- ア 南満州鉄道が中国に爆破されたため満州の権益を守るという口実で、関東軍は満州を軍事占領した。
- イ 関東軍が満州国建国を画策しているころ、蒋介石は軍閥との戦いで、日本への対応を後回しにしていた。
- ウ 資源を多く持たない日本にとって満州は重要な権益で、まさに生命線であると考えていた。
- エ リットン報告書に不満を持った日本が国際連盟を脱退することは、のちのドイツとの同盟の背景となる。

問 2 資料 1・2 から読み取ることができる日本と中国双方のリットン報告書に対する不満についての説明として正しいものを、次から選びなさい。

- ア 国民党の一部は、中国側に主権がある中国東北部全域に日本軍の駐留を認めたことに不満を持っている。
- イ 国民党の一部は、中国領であるはずの満州の自治政府に日本人顧問が認められたことに不満を持っている。
- ウ 日本は、満州は代々日本人が居住していた地域だとして、自衛権や民族自決という言葉で反論している。
- エ 日本は、満州におけるすべての権利を認められなかったとして、リットン報告書に不満を持っている。

- 問3 下線部 b について、中国政府は二十一カ条の要求を受け容れざるを得なかったが、中国の人々はアメリカのウィルソン大統領に期待を寄せた。しかし、ヴェルサイユ条約によってその期待は裏切られた。中国の人々は、ウィルソンがどのような考えを提唱したことに期待し、期待を裏切られた結果どのような行動を起こしたかを説明しなさい。
- 問4 このように、リットン報告書の内容は日中双方が不満を持つ結果となり日中の対立は続いた。そして、日中戦争へと拡大したが、その前後の動きについて説明した次の文章のうち、正しいものを選びなさい。
- ア 共産党の毛沢東は、日本に亡ぼされる危機の中、内戦をしている場合ではないとして国民党に内戦停止を訴えた。
 - イ 日本は満州のさらに北方でソ連軍と衝突し、戦力で日本を上回るソ連を精神力によって圧倒し勝利した。
 - ウ 中国内陸部を制圧し圧倒的優位に立った日本で、さらなる権益の拡大を求め北進論と南進論が検討された。
 - エ 日中戦争開戦後、はじめて国共合作が結ばれ、抗日民族統一戦線が成立した。

【 4 】 太平洋戦争について、それぞれの資料をもとにあと問いに答えなさい。

資料 仏印（フランス領インドシナ）進駐

日本軍が南部仏印進駐に踏み切る背景には、ア 日中戦争の勝利、イ 日本の南方資源への渴望、ウ 米国の経済制裁、エ 独ソの関係などがある。これらは複雑に絡み合っているが、日本は激動する国際情勢に翻弄されて大局を見失い、進駐から四か月余り後、a 米英両国に宣戦を布告する。

『検証・戦争責任』読売新聞より

問1 上の資料の下線部ア～エのうち、誤っているものを選びなさい。

問2 下線部 a について、次の2つの新聞記事から読み取れる情報 X・Y と、歴史的な事実から考えられる新聞記事についての考察 A～D の組合せとして正しいものを、次のア～エから選び、記号で答えよ。



新聞記事 X



新聞記事 Y

情報

- X ミッドウェー沖で日本軍は、アメリカ軍の空母 2 隻を撃沈した。
- Y B 2 9 戦闘機が広島へ新型爆弾を投下した。

考察

- A 日本軍は太平洋での海戦でアメリカ軍に対して優位な状況であった。
- B 日本軍の太平洋での戦況は、国民に正しく知らされなかった。
- C 原子爆弾による被害が大きく非人道的であることが国民に知らされた。
- D 原子爆弾が投下された事実は、国民に全く知らされなかった。

- | | | | | | |
|---|-------|-------|---|-------|-------|
| ア | X - A | Y - C | イ | X - A | Y - D |
| ウ | X - B | Y - C | エ | X - B | Y - D |

解答 【1】問1 エ 問2 イ 問3 エ
【2】問1 (1) ワシントン (2) 主力艦 問2 エ 問3 5 : 3 問4 イ
【3】問1 イ 問2 イ
問3 中国の人々は民族自決の実現に期待したが、裏切られたことに抗議し五・四運動
が起こり、中国共産党が組織された。
※民族自決が書けて2点、五・四運動または中国共産党の結党が書けて2点
問4 ア
【4】問1 ア 問2 エ

1問2点 ※【三】問3は4点 合計30点